

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570100713		
法人名	社会福祉法人 暁会		
事業所名	グループホーム あかつきの里		
所在地	山口県下関市汐入町36-6		
自己評価作成日	平成29年1月28日	評価結果市町受理日	平成29年6月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成29年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手作りの物・四季折々の飾り等に囲まれ、暖かい環境の中でゆったりとその人らしく暮らせることを目標にしています。得意の分野で利用者さん一人ひとり、力を発揮できるように支援したり、暮らしの希望・思い・意向を把握して個別ケアに取り組んでいます。レベルの差がある18名ですが、さりげなくお互いを助け合い、毎日笑顔で安心して過ごして頂けるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所アは、自治会に加入しておられ、海峡マラソンでは、自治会ボランティアとして、事業所の職員が参加協力しておられます。事業所だよりを地域に回覧されて、事業所のことを理解してもらう機会にしておられ、地域との関わりを深めるように取り組まれています。前回の外部評価結果を受けて、運営推進会議で災害時における地域との協力関係について話し合わせ、事業所の避難訓練に地域メンバー2名の参加を得られて実施されているなど、できるところから改善に取り組まれています。職員は、内部犬種で、心肺蘇生、気道異物除去、熱中症、心臓発作、骨折などの応急手当や初期対応について学んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲示し、1年に1度その意味について(今年度は家庭的な雰囲気)全職員及び運営推進会議出席者と話し合いをし共有している。管理者と職員は日々ケア場面を通して理念を意識し実践につなげる様努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。朝礼時に唱和している他、日常業務の中でも話し合い、理念を共有して実践につなげている。今年度は理念の「家庭的」・「安心」などの意味について各職員がどのように考えているかを日々のケア場面で理念を意識づけして実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入、地域の回覧板に広報紙「わっしょい」を回して頂き(46枚)グループホームを紹介している。海峡マラソンには自治会ボランティアとして職員が参加。法人の夏祭りには地域の方が参加し利用者・家族と交流している。地域の方から日用品や果物等の差し入れもある。	自治会に加入し、事業所だよりを地域に回覧している。海峡マラソン時には自治会のボランティアとして職員が参加している。法人主催の夏祭りには、家族や地域の人の参加があり、利用者が交流している。ボランティア(平家太鼓、平家物語)の来訪があり交流している。自治会長や地域住民から日用品や花、果物などの差し入れがある。月1回の法人レストランでの外食時に、知人と会話をして交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の人の理解や支援の方法・利用者の暮らしぶりを伝えている。また地域の方や家族の高齢者に対する相談にも、施設紹介を含めた対応をしている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価を実施する意義について職員に説明理解してもらっている。自己評価は職員に関係する項目を全職員記入、管理者とリーダーでまとめている。外部評価の結果をもとに次年度の目標達成計画を作成、職員や運営推進会議で報告、具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は、月1回のスタッフ会議や日常業務の中で、評価の意義や項目について説明している。全職員に自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、管理者とリーダーがまとめている。自己評価を振り返りと捉えている。前回の評価結果を受けて目標達成計画を立て、災害時の地域との協力体制の構築に向けて、できるところから改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催、利用者の状況活動内容事故ヒヤリハット研修内容を報告。毎回議題・テーマを変え、話し合いを行っている。参加メンバーの家族については、出席者を2名から4名に増やすとともに全家族いつでも参加できることを家族会にて説明している。議事録はメンバーや全家族に送付している。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者状況、活動報告、研修報告、ヒヤリハット、事故報告、外部評価結果報告をしている他、昼食試食会、感染症の勉強会、災害時の避難訓練等について話し合っている。会議の中で、ひなくんれんへのさんかを呼びかけ、市職員や地域メンバー2名の参加を得ているなど、活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課とは書類提出時・集団指導時等、長寿支援課・地域包括支援センターとは運営推進会議時等に情報交換・相談・助言を得る等、日頃から協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは、直接出向いて相談や情報交換をすしている他、FAX等で質問や相談をして助言を得たり、情報交換をして協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に利用者状況等について情報交換をし、助言を得ているなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何だかの事由が起こる度、身体拘束をしないケアについて話し合い取り組んでいる。マニュアルもあり内部研修も毎年行い学んでいる。日中玄関は施錠せず外出を察知した場合は利用者と一緒に出掛けたり気分転換をする等ケアに取り組んでいる。	職員は、身体拘束など内部研修で学んでいる他、日常業務の中で事例について話し合い、職員は正しく理解して、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠をしないで、外出したい利用者には職員が一緒に出かけて、気分転換をするなどの支援をしている。スピーチロックについては管理者が注意している他、職員間で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にマニュアルを目の届く所に置き、内部研修も毎年行い日頃から話し合い学んでいる。又、虐待が見過ごされることがないように職員全員で注意を払い確認をし、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。又、運営推進会議では議題テーマとして取り組んでいる。家族からの相談や必要性がある方が出た場合等活用できるよう関係者とのパイプを作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は契約書・重要事項説明書・パンフレットを用いて誠意をもって十分に説明し、理解納得していただいている。改定等の際は家族会で説明、文書で同意書を頂いている。解除は十分な説明と話し合いをし段階や期間を経てその後の施設等が決まった上で解除している		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を選任し、苦情や相談受付体制を明示するとともに、苦情処理手続きを定め契約時に説明している。運営推進会議・面会・家族会時等に意見や要望を聞いている。出された意見等については前向きに活かしサービスの質の向上につなげていくようにしている。	相談、苦情受付の体制や第三者委員を明示し、処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。運営推進会議時、面会時、年3回の家族会時、電話等で、家族から意見や要望を聞く機会を設けている。家族が面会で訪問した時に駐車場がないことが多いとの意見があり、法人と相談をし、駐車券の発行などの対応をして、家族が使用できるようにしているなど、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のスタッフ会議・カンファレンス・朝礼・職員意見箱・連絡帳・日々の業務の中で職員の意見や提案を聞き話し合い反映させている。	月1回のスタッフ会議、カンファレンス時、朝礼時、連絡帳、職員用意見箱などで意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者やユニットリーダーは日常業務の中でも聞いている。出た意見や提案は、法人の朝礼時には管理者が報告をしている。勤務体制の変更や資格取得等に対応しての勤務変更等についての意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場を通して状況や変化を把握し、職員の努力や成果については常に把握するように努力している。職場環境・条件の整備については資格取得に向けた支援を行なえるよう、これからも努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じ勤務の一環として参加している。受講者は、復命書・資料を元に朝礼時等を利用して報告している。法人研修は、できる限り参加し報告書を元に内部研修を実施している。又、ホーム内でも年間計画を立て、独自で研修を行なっている。	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じ、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をし、資料は閲覧できる他、コピーして全職員に配布している。今年度は認知症高齢者グループホーム研修、サービス評価地域推進会議、中堅研修等に参加している。法人研修は月1回の開催で、虐待、身体拘束、気道異物除去、感染症などに参加している。内部研修は毎月、年間計画にそって、外部研修や法人研修の復命の他、初期対応(熱中症、感染症、食中毒、気道異物除去)、骨折、身体拘束などについて実施している。新人研修は法人研修後に、1ヶ月間業務マニュアルに基づいて、先輩職員の指導を受けての働きながら、学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人との連携は取れるよう努力している。送付される郵便物等には目を通してはいるが、事業所団体や県・市単位の連合会等には参加できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から申し込みを先に受けヒヤリングする。その情報を元に入居前・入居決定後に来設して頂き、本人の話を傾聴、様子を観察して、不安や困っていることを把握、本人の安心を確保できるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族の話をしっかり聴き家族等が今何に困っているのか、不安に思っているのか、本人の意見とは区別して把握し、思いを受け止めながら関係を築くよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時本人や家族の思い、状況を確認し、困っていることや不安なことに対して、当事業所・同法人内他事業者で対応できることはないか方策を考えその場で連絡紹介して支援できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを忘れずに共同生活をする仲間として共に笑ったり泣いたり関係づくりが出来るよう接遇の研修を行い職員は本人を介護される一方の立場におかない関係づくりに努めている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報紙「わっしょい」で施設での出来事を知らせたり本人の状態を職員が一筆添えたりして送付している。何かあれば常に連絡し報告。家族との関係を密にしている。面接時には本人の状況をできる限り伝え家族に協力していただけることをお願いする等、本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築いていけるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の状況を把握し、家族に馴染みの人や場所との関係が途切れないようお願いしている。友人、知人、親戚の方々が面会時には本人の過去の情報を得ると共に再訪をお願いしている。	家族の面会や親戚の人、孫、教え子、友人、知人、馴染みの看護師、知人の娘などの来訪がある他、法人のレストランでの食事に出かけ、馴染みの人と挨拶を交わし交流している。家族の協力を得ての外出、墓参り、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のレベル、性格、利用者同士の関係や力を把握し自席を変えたりトラブル時には仲を取り持ったり、孤立しないように支援している。又互いに協力してやれるレクリエーション(おやつ・焼きそば・お好み焼き作り・運動会等)を多く企画実施し利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院継続・又は他施設に行かれても、電話での問い合わせ・相談等があれば些細なことでも気軽に対応できるように努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や利用していた事務所のケアマネ等から情報を入手してセンター方式のシートを利用しアセスメントしている。入所後は、日々の関わりの中で利用者の言葉や様子をケース記録に記録して職員間で話し合い思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族や職員間で話し合い本人の視点に立って検討している。	入居時のセンター方式のシート(私の気持シートや暮らし方シート)を活用し、家族からの情報を得て思いや意向の把握に努めている他、日常の関わりの中で気づいたことや言葉、様子などをケース記録や連絡帳に記録し、申し送り時や月1回のスタッフ会議で話し合い、思いや意向の把握に努めている。。困難な場合は職員間で話し合いをして、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のセンター方式の基本シート・入居前に利用していた施設や在宅のケアマネからの情報提供をもとに本人や家族と馴染みの関係を築きながら会話する中でこれまでの暮らしを把握するように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームの一日の規則正しい生活習慣を基本にしつつも本人の意向を尊重し過ごしていただいている。バイタルチェック・排便チェック表・ケース記録により生活のリズムを把握し、日々の暮らしの中から有する力を見つけレク活動や家事に関わっていただいている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・主治医・看護師・職員の意見を参考に介護計画書を作成している。利用者1人ひとりの担当職員を決めており計画書を元に管理者・計画作成担当者・担当職員・他職員で毎月モニタリングを実施、4か月毎の見直しをしている。モニタリングやスタッフ会議・朝礼等で話し合い利用者の状況に変化が生じた時は見直し、現状に即した介護計画を作成するように努めている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族の意向を聞き、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、4ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態の変化が生じた場合はその都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に食事・水分量・排泄等の身体状況や日々の様子や本人の言葉エピソード、介護計画に添った事柄等を記録しいつでも全職員が確認できるようにしている。朝礼時・スタッフ会議・モニタリング・連絡帳等で情報を共有している。変化があった時はその都度朝礼後話し合い対応し介護計画の見直しにも活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各利用者の様々な記録を元に、今必要なニーズをあげその方が残存機能を生かしよりよく生活していける為に個人的な対応に取り組む柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。訪問リハビリを依頼。数名の入居者が実施、成果が出ている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に一回、運営推進会議を開催。自治会長・民生委員・市役所の職員・包括のケアマネ・保護者代表を交えて、情報交換を行っている。本事業所の夏祭りに参加、地域の方との交流・理美容院の来設・消防署来設による避難訓練を実施する等地域資源と連携し活用できるように努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切にし、納得が得られた協力医療機関をかかりつけ医としている。また在宅支援診療より月2回訪問診療を受けている。他科受診時も支援診と情報交換して必要時は家族の協力を得て受診を支援し、受診結果は家族へ連絡している。職員間でも情報を共有して適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族の納得を得て協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。他科受診は家族の協力を得て事業所が受診の支援をしている。受診結果は面会時や電話で家族に伝えている。職員間では連絡帳やケース記録に記録して共有している。夜間時や緊急時には看護師に連絡し、協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気付きは医療連携申し送りファイルに記入して月2回の訪問診療時に相談している。緊急の特変時は電話で伝えて指示を仰いでいる。それにより薬の処方や必要時は受診できるよう支援している。またH28.7月から医療連携体制が取れるようになり看護師に相談している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	支援診療の吉水内科・昭和病院と連携しており病院関係者とは常に情報交換や相談に努め、関係づくりを行っており、入院時には早期に退院できるように支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合に事業所でできることを説明している。実際に重度化した場合には早い段階から本人・家族と話し合い、主治医に相談、職員とも話し合い方針を共有し支援に取り組んでいる。	契約時には「重度化した場合の対応に係る指針」に基づいて事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は家族と話し合い、主治医や看護師等と医療機関や他施設への移設も含めて方針を決め、共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	けが・骨折のどの詰まり・意識不明等の事故発生時事故の概要と対処方法を全職員学習し訓練し、実践力を身につけるよう努めている。夜勤時の緊急事故対応についてはマニュアルを整備し、周知徹底している。消防署の協力を得て全職員年1回の蘇生術の勉強をしている。	事例が発生した場合は、その日の職員間で再発防止策について検討し、記録して、申し送り時に伝え、回覧して共有している。状況に応じて検討を繰り返し、再発防止に努めている。事故発生時に備えて、心肺蘇生、気道異物除去、熱中症、食中毒、骨折、感染症(ノロウィルスなど)の研修を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年5回(内1回消防署来設)実施自動火災報知設備を設置し食糧備蓄もしている。また運営推進会議で災害時には地域の方々の協力が必要であることを説明・お願いすると共に施設を地域の避難場所に提供しよう声かけしている。会議時の議題・テーマに消防訓練を取り込み地域の参加者と実施する等・地域との協力体制を築くよう努めている。	消防署の協力を得て、夜間想定通報、消火訓練、避難誘導などの訓練を行政職員1人と地域メンバー2人の参加を得て、利用者と一緒に実施している。年1回、ケアハウスと合同で火災時の避難訓練を実施している。運営推進会議で話し合い、地域に協力を依頼している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を通し利用者一人ひとりの人格の尊重・誇りやプライバシーの確保を学び言葉かけや対応に配慮するよう努めている。配慮が欠ける時には職員同士注意したり朝礼時に事例を上げ周知する等している。他の家族や外来者に対して本人のプライバシーに関することを話さないように管理者が職員に指導している。	法人研修で接遇を学び、内部研修時に復命研修をして職員は理解している。職員は、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。声かけなどで不適切な対応があれば、管理者が注意している。個人情報の管理に留意し、守秘義務について職員は理解し、遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の観察や会話・表情・行為・行動等から本人の思いや希望を把握するように努めている。職員が手出し口出しせず、本人の言葉や動きを待ち、自己決定できるように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れでスケジュールはあるがそれにこだわる事なく利用者の体調や気分を考え一人ひとりのペースを大切に希望に添って暮らせるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師さんが隔月来設。利用者の意向を聞いてカット・髪染め・剃りをしている。ご家族がカットされる方もいる。明日着る服は、季節に合ったものを相談して決めている。身だしなみが不十分なところや乱れは職員がさりげなく声を掛けたり直している。ご家族がマニキュアを塗ったり、髪留め、イミテーションのリングなど、おしゃれが出来るように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き・お茶のパック詰め・食器洗いを職員と一緒にしている。週4回の『あかつきカフェ』ではお好みの飲物を選んで楽しんで頂く。月に一回のおやつ作り、焼きそば又はお好み焼き作りでは個人の能力に合わせて材料のカット・卵割・混ぜる等の役割分担をして調理、調理することの楽しさ・食べることの楽しさを感じていただく。レストランでの外食・季節の行事食・月1回の誕生日食等食事を楽しむことが出来るよう支援している。	昼食と夕食は法人の配食を利用している。朝食は事業所で作り、形状の工夫をしている他、パン食の対応もしている。利用者は下ごしらえ、テーブル拭き、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。職員は朝食と夕食は、利用者と同じものを食べている。季節の行事食(おせち、節句など)、誕生日食、月1回のおやつづくりの他、法人レストランでの外食、家族との外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食・夕食は栄養課の配食を利用。朝食は調理している(パン食のときもある)利用者の状態に合わせ、主・副菜の量。形状を決め、水分量は一人ひとりの状態に応じて過不足のないように提供している。食事や水分の摂取量をケース記録に記録。職員が情報を共有している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕の歯磨きが基本だが、利用者の能力やその日の体調により無理な時は、最低限夕食後には口腔ケアを施行するように声かけしている。併せてインジゲンによるうがいも実施している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自ら出来ない人は定期的に声掛けや誘導し、トイレで排泄出来る様に習慣づけ、紙パンツ使用にならない様又、紙パンツ使用が軽減出来るよう支援している。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに応じた声かけをしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を少しでも和らげる様、水分補給・食物(ヨーグルト等)リハビリ体操を毎日行なって便秘改善に努めている。改善見られない場合は、主治医と相談の上緩下剤を服用する時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週3回午前中と決めているが、24時間対応の浴槽を設置。利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて対応出来る様になっている。入浴時は無理強いすることなく声掛けや対応の工夫職員のチームプレイ等により個々に合わせた入浴の支援をしている。	入浴は毎日、10時から11時30分までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて、週3回はゆっくりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には、時間の変更や職員の交代、声かけの工夫をしている。利用者の状態に応じての清拭やシャワー浴、足浴の対応など一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間だけで判断せず、一人ひとりの体調疲れ具合等を見て休息をとって頂き毎日必要な休息・睡眠をとることで自然な流れが出来る様に支援している。日中日向ぼっこをしたり気持ちよく眠れるように支援し、眠れない時は寄り添い・話を傾聴するとともに主治医に相談している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬情をケース記録にファイルしてそれぞれの利用者が何を服薬しているか理解出来るように努めている。症状の変化については連絡帳と朝礼時の報告にて周知している。平成29年1月よりかかりつけ薬剤師より居宅療養管理指導サービスが利用出来るようになった。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションでは、塗り絵・折り紙・習字・カラオケ・しりとり・風船バレー・テーブルテニス・牛乳パック積みなど、行事では、誕生日会・おやつ作り・焼きそば・お好み焼き作り・散髪・利用者交流会・敬老会・クリスマス会・忘年会・家族会など。日常生活では、洗濯物干し・洗濯物畳・お茶パック詰め・食器洗い・新聞紙の汚物入れ作りなど活躍できる場面作りや楽しみ事・気分転換が出来るように支援している。	テレビ視聴、ラジオを聴く、書初め、福笑い、絵馬づくり、雛壇づくり、手づくりカレンダー、ぬり絵、折り紙、習字、しりとり、本読み、季節の行事(鏡開き、忘年会など)、茶話会、脳トレ、ラジオ体操、下肢体操、口腔体操、おやつづくり、下ごしらえ、テーブル拭き、食器洗い、新聞紙のゴミ箱づくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップ掛けなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々については天気・風を考慮し、散歩・日向ぼっこをしている。家族の協力を得て外食・買い物・温泉・墓参り・法事などの外出の支援をしている。	周辺の散歩、外気浴、月1回の法人レストランでの食事、法人の祭り、周辺の桜の花見などの他、家族の協力を得ての外食、買物、外出、墓参りなど、戸外に出かけられるように支援をしている。	・外出支援の工夫
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預り金として預かっている。 外出行事や季節の行事時に見守りにて使えるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や季節の便りを家族へ送るように支援している。 家族や親戚・友人との手紙や電話のやり取りは本人の意思を尊重し、家族の了解を得たうえで自由に行えるようにしている。携帯電話を所持している方もいる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は広くし家具・テレビ・ソファを置きコミュニケーションを取りやすく移動しやすい様に配置している。壁面には季節ごとの作品・習字・カレンダーを一緒に作り、行事の写真飾っている。居間の棚には本や人形・観葉植物・利用者の作品集・写真集を置いている。玄関には季節の花を植え水やりなど一緒に出来る様にしている。窓から見える風景で季節を感じる事が出来、温度・湿度管理、利用者や家族、運営推進会議のメンバーに感想や気付きを常に聞きながら清潔かつ居心地よく過ごせる様に工夫している。	共用空間は広くて明るく、室内には、利用者と一緒につくった季節の飾りが置いてある。壁面には利用者の貼り絵の作品や習字、手づくりカレンダー、行事の写真が飾ってある。備え付けの棚には利用者の作品集や行事等の写真集が収めてあり、いつでも見ることができる。その時々状況によってソファの配置の工夫をして、ゆっくりと過ごせるようにしている。浴室やトイレは清潔で使いやすい工夫をして、温度、湿度、換気等に配慮をして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で自席を決めて居場所を作っている。また、その時々の人間関係・利用者の申し出により席替えをして、落ち着いた生活が送れるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用していた家具（鏡台・タンス・椅子等）・雑貨（化粧品・ぬいぐるみ・造花等）・お気に入りの服・写真などを置く事で安心感を得て頂けるよう工夫している。	鏡台、タンス、時計、衣装ケース、仏壇、ラジオカセット、ぬいぐるみ、三段棚、衣装掛け、化粧水、日用品など利用者が使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真等を飾って居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を考え家具の配置等・生活空間で転倒につながる原因がないか常にチェックし生活環境を整えていくようにしている。本人の活動性を維持する為にシルバーカーを変えて頂く等一人ひとりの身体機能の変化に配慮し、対応している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム あかつきの里

作成日：平成 29 年 6 月 25 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35 (15)	全職員による応急手当や初期対応の実践力を 身につけるため訓練の継続	全職員実践力を身につける	内部研修を毎月行なう 理念・接遇・食中毒・熱中症・感染症（インフル エンザ・ノロウイルス・疥癬等）身体拘束・虐待・ 人権・プライバシーの保護・骨折・誤嚥・初期対 応・・・等 職員による研修を行なう	1年間
2	36 (16)	火災や地震、水害等の災害時、地域との協力 体制を築くまでには至っていない	地域との協力体制の構築	地域の協力体制については、運営推進会議で 自治会に協力を呼びかける ・災害時に備え訓練を毎月行なう	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。